

試練に耐え 神を讃えたるヨセフ

創世記45章1～16節
2022年8月28日
松藤紀年 師

今日は、ヨセフのひた向きな信仰と、人となりを、創世記45章から学びたいと思います。

詩編16章8～9節に、

「わたしは絶えず主に相對しています。主は右にいまし、わたしは揺らぐことはありません。わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います。」

先ず、ヨセフの「ファミリーヒストリー」をご覧ください。ヘブライ人への手紙11章1、8～11節に、「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えな事実を確認することです。信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、同じ約束されたものを共に受け継ぐ者であるイサク、ヤコブと一緒に幕屋に住みました。信仰によって、不妊の女サラ自身も、年齢が盛りを過ぎていたのに子をもうける力を得ました。約束をなされた方は真実な方であると、信じていたからです」とあります。

ヨセフは、父ヤコブが初恋の女性で、20年ほどの年月の果てに、やっと手にした最愛のお嫁さんで、生涯愛し尽くした最高の人、ラケルとの間に

誕生します。ヨセフについて、お話しする前に、先ずヨセフの父、ヤコブの人となりを少し覗いてみましょう。ヤコブには、人生の分岐点となる重要な出来事が、わたしの視点であり、少し強引ではありますが、二つあったと思っています。

その一つは、長子の特権、もう一つは結婚です。長子の特権では、イサクには、エサウとヤコブが誕生します。二人の子供は成長して、エサウは巧みな狩人で、野の人となったが、ヤコブは穏やかな人で、天幕の周りで働くのを常とした。イサクはエサウを愛した。狩りの獲物が好物だったからである。しかし、リベカはヤコブを愛した。ヤコブは言った。

「まず、お兄さんの長子の権利を譲ってください。」

「ああ、もう死にそうだ。長子の権利などどうでもよい」

とエサウが答えると、ヤコブは言った。

「では、今すぐ誓ってください。」

エサウは誓い、長子の権利をヤコブに譲ってしまった。

父イサクは、長男のエサウに、長子の特権を譲ることを決めていたし、それを疑う余地は微塵も無かったと思います。しかし、母リベカとヤコブは緻密、且つ周到で、貪欲とも思える戦略を駆使して、長子の特権を奪い取ります。この無謀とも思える結果に恐怖さえ感じます。しかし、花より団子ではありませんが、大切な長子の特権より**空腹を満たすため、軽率で愚か**とも思える決断をしたエサウに哀れささえ感じます。神様は、兄のエサウではなく、穏やかな人で、天幕の周りで働くのを常と

した、弟ヤコブを選らばれた事に、神様のご計画、御心に計り知れない御業を示されています。

ヤコブの結婚は、創世記29章16節～30節で、「ところで、ラバンには二人の娘があり、姉の方はレア、妹の方はラケルといった。レアは優しい目をしていましたが、ラケルは顔も美しく、容姿も優れていた。ヤコブはラケルを愛していたので、

『下の娘のラケルをくださるなら、わたしは七年間あなたの所で働きます』

と言った。ヤコブはラケルのために七年間働いたが、彼女を愛していたので、それは、ほんの数日のように思われた。ヤコブはラバンに言った。

『約束の年月が満ちましたから、わたしのいなすけと一緒にいらさせてください。』

ラバンは答えた。

『我々の所では、妹を姉より先に嫁がせることはしないのだ。とにかく、この一週間の婚礼の祝いを済ませなさい。そうすれば、妹の方もお前に嫁がせよう。だがもう七年間、うちで働いてもらわねばならない。』

こうして、ヤコブはラケルをめとった。ヤコブはレアよりもラケルを愛した。そして、更にもう七年ラバンのもとで働いた。

ここには、ヤコブの、

『神様を恐れ信頼し忍耐をもって、

意地悪とも思える叔父ラバンに仕える』

ヤコブの人となり伝わります。ヨセフは、父ヤコブが、20年越しで愛し娶った妻ラケルとの最初の待望の子供です。父ヤコブにとって、年若い

て誕生したヨセフを、他の息子達の誰よりも慈しみ、育て、周りの誰が見ても溺愛しました。しかし、その事が後に、他の異母兄達の反感を買い、いじめ、疎外、更には、殺害計画までエスカレートします。そしてついに、ヨセフは、殺害こそ免れたものの、捨てられ、エジプトへ奴隷として売られます。

父ヤコブは、愛し育てたヨセフが、想像すらしていなかった最悪の状況に、驚き、悲しみ涙します。しかし、神様はヨセフの「ファミリーヒストリー」アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神の信仰の遺産、継承者として、夢を解き明かす知恵と、様々な指導能力を賜物として授けられた事で、ヨセフは神様に支えられ祝福されます。エジプトに奴隷として売られ、連れてこられたヨセフはファラオ王の廷臣で、侍従長ポティファルの妻の讒言(ざんげん)による無実の罪をきせられ、獄に入れられる等、有能なるが故に、様々な試練の中にも拘わらず、その働き、道筋の全てが神様に祝され守られます。

エジプトの王は、創世記41章41、42節で、

「ファラオはヨセフに向かって、

『見よ、わたしは今、お前をエジプト全国の上に立てる』

と言い、印章のついた指輪を自分の指から

はずして、ヨセフの指にはめ、亜麻布の衣服を着せ、金の首飾りをヨセフの首にかけた。」

ヨセフは、正にエジプトの全権を担うナンバーツウに任ぜられます。

そのヨセフが、異母兄達との再会に、

感情をコントロール出来ない状況を察した傍に仕える者たちは、戸惑いを覚えたに違いありません。

45章3節で、

「ヨセフは、兄弟たちに言った。

『わたしはヨセフです。 お父さんはまだ生きておられますか。』

兄弟たちはヨセフの前で驚きのあまり、答えることができなかった。」

ヨセフの告白で異母兄達に電撃が走ります。

今風に言えば、

『異母兄達の全員の頭が真っ白、金縛り状態になった』

と言う言葉が相応しいでしょう。 かつて、目の前にいるヨセフに対する父ヤコブの、盲目的な愛、可愛がり方、待遇に加え、ヨセフ自身の兄弟達の告げ口、夢の解き明かし等、反感や嫉妬が、亡き者にしようとする殺人未遂にまで、エスカレートしました。 殺害こそ、しなかったものの、エジプトへ奴隷として売った弟のヨセフが目の前にいる。それもエジプトの宮廷の全権を握るまで上り詰めた弟のヨセフが、目の前に立っている状況に、言葉を無くし、呆然と立ち尽くす兄達の様子が、リアルに想像できます。

驚き、戸惑いで、動揺を隠し切れない状況の異母兄達に対して、ヨセフは過去に受けた異母兄達の過ちを責める思い、恨む気持ちが、なぜ起きないのか、視点を変えて見ると、

『ヨセフの神様を恐れ敬う、謙虚なへりくだった信仰を読み取ることが出来ます。』

ヨセフのファミリーヒストリーから、

『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神の信仰を、受け継ぐ者』

として呼びかけます。

45章4～8節に、

「ヨセフは兄弟達に言った。

『どうか、もっと近寄ってください。』

兄弟たちがそばへ近づくと、ヨセフはまた言った。

『わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。』

驚かないでください。 恐れなくてください。

お兄様方は、過去の出来事を思いめぐらされておられる事でしょう。

『しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。 命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです』

ヨセフは話を続けます。

『この二年の間、世界中に飢饉が襲っていますが、まだこれから五年間は、耕すこともなく、収穫もないでしょう。 神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。 わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。 神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者としてくださったのです』

と言っています。

ヨセフの心の中には過去の嫌な思い出、赦しがたく、忘れようとしても断ち切れない、苦難から、解き放たれ、全ての事を最善に執り成し、整えて下さる神様に委ね、従うヨセフの、主に満たされた

姿があります。45章9～13節に、

「急いで父上のもとへ帰って、伝えてください。
『息子のヨセフがこう言っています。神が、
わたしを全エジプトの主としてくださいました。
ためらわずに、わたしのところへおいでくださ
い。そして、ゴシエンの地域に住んでくださ
い。そうすればあなたも、息子も孫も、羊や
牛の群れも、そのほかすべてのものも、わた
しの近くで暮らすことができます。そこでの
お世話は、わたしが引き受けいたします。
まだ五年間は飢饉が続くのですから、父上も
家族も、そのほかすべてのものも、困ることの
ないようになさなければいけません。さあ、
お兄さんたちも、弟のベニヤミンも、自分の目
で見てください。ほかならぬ、わたしがあな
たたちに言っているのです。エジプトでわた
しが受けているすべての栄誉と、あなたたち
が見たすべてのことを父上に話してください。
そして、急いで父上をここへ連れて来てくだ
さい』」

と言っています。

そして、45章14～16節に

「ヨセフは、弟ベニヤミンの首を抱いて泣いた。
ベニヤミンもヨセフの首を抱いて泣いた。
ヨセフは兄弟たち皆に口づけし、彼らを抱いて
泣いた。その後、兄弟たちはヨセフと語り
合った。」
「ヨセフの兄弟たちがやって来たという知らせ
が、ファラオの宮廷に伝わると、ファラオも家来
たちも喜んだ」

とあります。

本日の御言葉は、

『ヨセフの試練の中にも、神様は、私達の傍ら
にいて、愛の眼差しの中に、御業を成し、支え、
最善を成して下さる』

と言う確信を与えてくれます。

エフェソの信徒への手紙5章8～10節に、

「あなたがたは、以前には暗闇でしたが、
今は主に結ばれて、光となっています。
光の子として歩みなさい。

——光から、あらゆる善意と正義と
真実とが生じるのです。——

何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。」

私達キリスト者は、今も生きて、私達の歩みを、
働きを、いつも、最善に導き支えて下さる主を、
信じ、感謝に満ちた

「ちむどんどん」（心わくわく）

神様を見上げ祈りつつ、イエス様の愛に
根差した信仰生活が出来よう共に、
お祈りしましょう。